

市長賞

サラリーマン捨てて農継ぐ孫のうすき肩にまぶしも柿若葉萌ゆ

杉浦りん

【評】 「畑より望む雪富士凜として老い励まざるふるさとの山」という歌も詠む作者。

サラリーマンを辞めて農業を継いだ孫を詠んだ一首。これから遅しくなっていく青年の、まだ「うすき肩」。その向こうに広がる生命力豊かな柿の葉のみどり。

まぶしい若葉の新緑と、始まったばかりの孫の未来とを重ね合わせて、とても清々しいあたたかな一首に仕上がりました。完成度の高い一首です。